

第3部

関係団体等との連携と
協働による「より相談しやすい
体制づくりへ向けた検討会」

令和3年度依存症民間団体支援事業において作成したポスターの効果測定及び波及効果を検討するための関係団体等による意見集約と課題分析

《活動の概要》

厚生労働省「令和3年度依存症民間団体支援事業」(以下、事業)において、ソーシャルワーカー関係団体(以下、関係団体)の協働による成果物作成に取り組んだ。かねてより、関係団体に呼びかけて、意見交換会を重ねる経過があったところだが、それらを踏まえる具体の成果をかたちにする第1弾として「ポスター」を作成した。

このポスターに込めた意図は、本協会のみならず関係団体のネットワークを駆使して、全国各地の関係機関等の多様な場に掲示され、多くの人たちの目に触れることを意図した。一般国民・市民に掛かる普及啓発の広がりとともに、これから依存症及び関連問題にかかわろうとする新たなソーシャルワーク人材の発掘につながることへの寄与も願った。

上記の経過を踏まえる令和4年度事業では、果たしてその後、実際のところどうであったのか、広く国民に向けた啓発に資するものであったのか否か、今後のより相談しやすい体制づくりやソーシャルワーカー個々の支援向上につながる成果が些かなりとも見られているのか否かについての効果を検証することの必要性から、その調査を実施した。

調査の1つ目として、協働に参画いただいた関係団体に対して、「その後について」のアンケートによる意見や提案を求めた。2つ目として、本協会の全国の構成員に対して構成員メールマガジンなどを活用し、その意見等を求めた。

《関係団体へのアンケート項目とその回答》

協働に参画するソーシャルワーカー関係4団体に宛ててアンケートを送付した。結果、全ての団体から回答を得た。



1) ポスターの有用性について率直なご意見をお伺いします。

【有用である】	【どちらでもない】	【有用でない】		
① -----	② -----	③ -----	④ -----	⑤ -----
①【回答】【有用である理由】依存症に苦しむ当事者及び当事者家族が悩んでいるときは、周囲の支援に気づきにくいと思いますが、ポスターが掲示されていることで支援につながるきっかけとなると考えるため、有用であると考えます。				
①【回答】【有用である理由】ポスターは、必ず人目につくように、貼り付けられることから良い意味でも悪い意味でも近づく人の記憶に残るきっかけとなる。				
②【理由】相談できるというメッセージが伝わる内容のため				
③【理由】デザインや内容によると思われるため。				
④【理由】院内のソーシャルワーカーのアルコール関連問題に対する支援が標準化されておらず、また、職場の理解も得られず、もう少し院内の体制を整えてからでないとは掲示が難しいと判断しました。				

2) 貴団体所属の会員からのポスターへの反響はありましたでしょうか？

1 団体より反響ありとの回答

【反響の内容】実際にポスターが掲示されていた。

3 団体より反響はなしとの回答

3) 今後、貴団体所属の会員らに宛てて「ポスター」の掲示を勧奨するなどの働きかけを予定されていますか

1 団体より「あり」との回答

【理由】今後、本会でも依存症に関する事業を進めてまいりますので、それらの周知、広報の際にもポスターの掲示をあわせて行いたいと考えております。

2 団体より「なし」との回答

【理由】内容やポスターの絵から貼りにくい…。例えばカードにして受付に置いて自由にとってくださいなど、相談対応したソーシャルワーカーが私はこの問題に対応する、またはできます、といったかたちで渡すことはできるかもしれません。

【理由】掲示については、会員の判断に任せる。

1 団体より「あり」「なし」どちらにも記載なしの回答

【理由】枚数の問題もあり、送り方などにも工夫が必要なことから、役員や近くの人のみに配る傾向がある。

4) 貴団体における依存症への取組みについてお尋ねします。

3 団体より「あり」との回答

【その内容】

2017年度より会員に限定しない『依存症回復支援研修』を実施し、2020年度から社会貢献事業として位置づけられ、「依存症リカバリーソーシャルワークチーム」として活動しております。

一般医療機関に潜在するアルコールに関連する「治療ギャップ」「相談支援へのつながりにくさ」「偏見・差別」を解消するため、依存症支援を自らのソーシャルワーク実践対象とすることができるよう、正しい知識の普及や人材育成の検討、政策への提言準備等に引き続き取り組んでまいります。

【その内容】

依存症に関するeラーニングコンテンツの制作

【その内容】

依存症に関わるソーシャルワーカーの職能団体であるため

1 団体より「なし」との回答

【その理由】

色々な人がいることから個人差があることは避けられない。従って研究や教育のなかで、関心を持つ人が中心になっている。

5) 本事業の目的(意義)に対する意見をお述べ下さい。

- ・ ツールを使うことで、関係施設への啓発活動の1つになりますし、長く広く知ってもらうには継続的に行うことが大切であると考えます。イラストが古く暗かった。コンペなどするともっと多くの人に知ってもらえる。もっと親しみが持てるようなものがないと思います。
- ・ ポスターを見たことで、しないといけないんだなという意欲喚起にはなったと思うが、一般医療機関では掲示が難しい…
- ・ ポスターのデザインがやや個性が強かったかもしれない。
- ・ 1団体だけでは、周知の広がりには限定的となってしまいますが、ソーシャルワーク関係団体が協働して、普及啓発を行うことで、日本全体に広げることができることが本事業の大きな意義であると考えます。また、今後も関係団体が連携し、本事業を継続していくことが、依存症に苦しむ人々の支援につながると考えます。
- ・ 問題意識を持つ人は、多いが実際に行動できる人は少ないのが現状。
- ・ たくさんの目的や成果を1つのポスターに求めることは、逆にポスターの主旨を曖昧にしてしまうのではないか。
- ・ 多くの人の記憶に残すために新聞、雑誌等「一コマ漫画」は参考になるのでは。

《本協会の構成員からの意見集約とその結果》

《アンケートの実施》

- ・ 意見集約方法の概要

2022年7月、本協会の定期刊行物に同封してポスターを配布。

2022年8月17日から9月30日、オンラインにて回答を募集。

《集約された結果の概要》

①回答者の概要

33人から回答を得た。

「都道府県支部」、「主たる勤務先の機関・施設」に関しては、大きな偏りはなかった。

「精神保健福祉士としての経験年数」に関しては、10年以上が大半を占めていた。

②ポスターへの感想

肯定的なものとして、以下があった。

- ・洗練された繊細な絵で見る人を大切にしようとしていることが感じられた。
- ・クライアントへの温かみが感じられる。

否定的なものとして、以下があった。

- ・描かれている人が無表情で親しみが湧かない。
- ・圧が強い。

また、掲示の有無について、「掲示する」33%、「掲示する予定」24%であった。

「掲示しない」が43%であったが、その理由としては以下があった。

- ・ポスターのデザインが悪い。
- ・依存症について知識が不十分、権限がない。

③依存症に関わることへの考え

該当項目に記入があった21人のうち、その大半(90%)が肯定的なものであった。

ただし、関わるためのスキル等の不足に不安があることを示唆する回答もあった。

《考 察》

- ポスターのデザインについて肯定的な声が聞かれる一方、否定的な声も少なからず寄せられた。
- 本来にポスターに込めた『意図』を達成するための重要な指摘であると受け止めた。
- ポスターのデザインやキャッチコピーなどの掲示物としてのクオリティーの重要性を再認識させられた。このことについての意見交換に、時間や労力を掛けるに充分ではなかったことは否めない。
- ソーシャルワーカーが依存症支援に関わるべきだと思える者が多い一方で、実際のところは、所属組織の都合、ソーシャルワーカー個人の力量不足等もあり、依存症支援に取りかかれない背景もまたうかがわれた。
- 結果、このことは「ポスターを掲示する、掲示しない」に如実な結果として現されている。
- 従前から本協会及び私たち委員が願っている『あらゆる分野の全てのソーシャルワーカーに依存症支援をあたりまえに』とする目標を鑑みて、こういった活動がすぐさまの成果を上げなくとも、一步一步、地道に積み上げて行くことの意義は大きいと考える。さらに、ソーシャルワーカー個々の依存症支援に取り組むことの意欲喚起やスキル向上にもつながることで、より相談しやすい体制作りにつながっていくものと思える。

【資料 関係団体に送付し回答を求めたアンケート用紙】

1) ポスターの有用性について率直なご意見をお伺いします。

【有用である】 【どちらでもない】 【有用でない】

① ----- ② ----- ③ ----- ④ ----- ⑤

【その理由】

2) 貴団体所属の会員からのポスターへの反響はありましたでしょうか？

①あり ②なし ↓ (①の場合、反響の内容)

3) 今後、貴団体所属の会員らに宛てて「ポスター」の掲示を勧奨するなどの働きかけを予定されていますか？

①あり ②なし

【その理由】

4) 貴団体における依存症への取組みについてお尋ねします。

①あり ②なし ↓ (①の場合はその内容、②の場合はその理由)

5) 本事業の目的(意義)に対する意見をお述べ下さい。

- 【事業の目的】
- ・ 協働して普及啓発のための成果物を仕上げることへの意義
 - ・ 広く市民にソーシャルワーカーの存在を知ってもらうための成果物としての意義
 - ・ 市民を対象としたSWの社会的認知の向上をはかることであると同時に、多くのソーシャルワーカー仲間に向けて支援力向上へ向けての意欲喚起をはかる意義

依存症支援啓発ポスター感想フォーム【7月同封物】

2022年7月の定期刊行物に同封させていただきました厚生労働省令和3年度依存症民間団体支援事業にて作成した依存症支援の啓発ポスターの感想をお聞かせください。

ポスター及び報告書は以下よりご確認ください。

<https://www.jamhsw.or.jp/ugoki/hokokusyo/202203-addiction.html>

(厚生労働省令和3年度依存症民間団体支援事業)

1. あなたご自身についてお伺いします。

都道府県支部

選択してください

精神保健福祉士としての経験年数（半角数字）

年

主たる勤務先の機関・施設

精神科病院（依存症専門機関の選定あり）

精神科病院（依存症専門機関の選定なし）

一般病院

認知症疾患医療センター

精神障害者を対象としている障害福祉サービス事業所等

行政機関

高齢者対象施設等

福祉関係施設等

障害者職業センター等

社会福祉協議会

発達障害者支援センター

各種学校

ホームレス支援

更生施設等

その他

勤務先なし

2. ポスターについてお伺いします。

1) ポスターを見てどのように感じましたか

2) 依存症及び関連問題にソーシャルワーカーが関わることについてどのように思いますか

3) ポスターの掲示についてお聞きします

すでに掲示している

掲示する予定

掲示しない

4) ポスターへのご意見や依存症及び関連問題についての協会への要望があったらお書きください

3. その他

メールアドレス (ご回答の控えを送信します)

info@example.com

誤りのないように入力ください。

次の「確認画面へ」のボタンを押すと、入力内容の確認画面へ移動します。次の画面では送信は完了していません。内容を確認のうえ、「送信する」のボタンを押すことで、申込が完了します。

★完了までの流れ：申込内容入力（「確認画面へ」ボタン）→入力内容確認画面（「送信する」ボタン）→申込送信完了

確認画面へ



このページの通信は
暗号化されています

第4部

おわりに

事業のまとめと提言

厚生労働省の推計では、アルコール依存症者は100万人、薬物依存症者は50万人、ギャンブル等依存症者は70万人と推測されている。2019年5月、世界保健機関（WHO）が国際疾病分類として認定したゲーム障害は、とりわけ中高生を含む未成年者の体力の低下や栄養不足、うつ気味になるといった心身不調を生じさせ、そして何より、家族や社会との機能不全が指摘されている。

これらは精神疾患でありながら、病気という認知・理解が進まずに自己責任論として片付けられることが多い。アルコール依存、薬物依存においてはさまざまな健康障害により身体を蝕み、死亡することも少なくない。依存症が疑われる人は、依存症の進行に伴って、社会破綻をきたし、依存していない人よりもうつや不安傾向が強く、自殺を考えたことや実際に自殺をしようとした経験がある人も多い傾向があることもわかっている。しかしながら、医療・保健・福祉分野においては、介入の難しさ等もあって支援者の忌避感情は根強く、精神科の分野においてさえも、「依存症を診ない」と公言して憚らない医師や医療機関も少なくない。むしろ専門医療機関が希少なほどである。私たちは、これら依存症及び関連問題を特定の個人の問題として片付けてはならないと考えている。依存症者への適切な支援に加えて、依存症を生み出す社会をあらためて見つめ直し、依存症にならざるをえなかった人たちの回復のために社会は何ができるのかが問われていると考え、行動している。

本協会は、厚生労働省「令和4年度依存症民間団体支援事業」を活用し、「関係団体等との連携と協働による福祉系大学生等を対象とした啓発イベント『アディクション・オープンゼミナール2022』事業 ～これからの福祉を担う大学生等が『依存症とその支援を正しく理解する』ことを共通認識とするために～」を開催した。

次世代を担う若者に依存症への理解を深めてもらい、依存症者を支援する専門職者として育つことを目的に、社会福祉を学ぶ学生を対象にするオープンゼミナールをオンラインにより開催した。

「必見！ソーシャルワーカー物語—学校では教えない依存症支援—」と題して、第1部は、依存症支援にかかわるソーシャルワーカーが依存症者と出会いに何を感じ、何を考え、どうやって仕事に当たっているか等、現任者によるそれぞれのソーシャルワーカー物語を配信した。

〈導入編〉「依存症を学ぶメリット～依存症支援スキルがチートすぎる件～」、〈ケースワーク編〉「依存症を抱えるクライアント～出会い、かわりからの学び～」、〈グループワーク編〉「依存症支援のおもしろさ～仲間との出会い～」、〈家族支援編〉「依存症と家族～人が人らしく人と共に生きる暮らしを支えたい～」、〈自助グループ編〉「依存症者との私の一つの出会い～私の成長を支え続けてくれたもの～」を配信した。また第2部として

は、「アルコール依存症とソーシャルワーク～教科書には出てこない依存症の知識と実際～」の講義で学ぶ内容を提供。そのうえで、参加者がその学びを深められるグループワークをオンラインで実施した。

参加者からは、「依存症支援の汎用性」(➡依存症支援が対人支援の大きなスキルとなる)、「依存症への正しい知識の重要性」、「依存症支援における周囲への支援、社会への働きかけの重要性」、「自己覚知の重要性」、「人間への興味、愛情、想像力の重要性」の大切さを認識した等々の感想が寄せられ、依存症支援の理解と依存症の支援にかかる関心を高める効果が見られた。

参加した若者たちが依存者と出会ったときに、今回の学習が依存症への忌避感情を回避し、専門職としての知識や技術をもって回復を支援することにつながるものと期待したい。

小児期のさまざまな逆境体験の重なりが不信感や被拒絶感を強め、アルコール依存や薬物依存を深刻化させるという研究がある。こうした不遇を背負うままに成長した人と養育機能の低下した親を、今度は「依存症は自己責任」とする論が、さらに追い詰める。人を育てる、人を支える、支えられる関係性が脆弱になっているこの社会は、精神的に貧しい人たちに対して、「助けを求められない」社会になってしまうであろう。

私たちは、依存症に陥らざるをえない困難や苦悩の理解し、もう一度生き直しをしたいと心の奥底では願う人たちを支援する専門職人材の育成を社会的責務と捉えている。セーフティガードとして依存症者の支援をできる社会作り、依存症者が回復し生きる価値を見いだすための支援をできる人材養成、人材育成を継続していくことは重要でありかつ必要である。

厚生労働省 令和4年度依存症民間団体支援事業

関係団体等との連携と協働による福祉系大学生等を対象とした
啓発イベント「アディクション・オープンゼミナール2022」事業

～これからの福祉を担う大学生等が「依存症とその支援を正しく理解する」ことを共通認識とするために～
の開催及び関係団体と協働した「より相談しやすい体制づくりへ向けた検討会」の実施

報告書

令和5(2023)年3月 発行

発行 公益社団法人日本精神保健福祉士協会

所在地 〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル7F
TEL.03-5366-3152 FAX.03-5366-2993

E-Mail : office@jamhsw.or.jp URL : <https://www.jamhsw.or.jp/>

※本書を無断で複写・転載することを禁じます。

※視覚障害のある人のための営利を目的としない本書の録音図書・点字図書・拡大図書等の作成は自由です。